

はじめに

私たちの地域には、子どもから高齢者、障がいのある方や外国籍の方など年齢も性別も考え方も違う様々な方が暮らしています。そうした方々と地域の中で一緒に支え合い、暮らしていくためには、自分の価値観や考え方に固執するのではなく、「相手の立場を考慮すること」「お互いの違いを認め合うこと」「相手を理解すること」が大切です。

「ふくし」は “**ふ**だんの **く**らしの **し**あわせ” ともいわれ、私たち自身が自分の生き方を大切に、周りの人や環境など地域と関わりを持ち、支え合いながら、自分なりの人生を継続していくという意味があります。

こうした「ふくし」は、住民と行政、そして福祉活動の様々な担い手の協働によって育まれるものです。企業も住民やボランティア団体などと同様に地域を構成するメンバーであり、「ふくし」の担い手、地域の一員として参加いただくことで、誰もが安心して暮らせる地域の実現に向けての大きな原動力となります。

佐世保市社会福祉協議会では、佐世保市内にある企業の皆様と一緒に安心して暮らせる地域をつくっていくために、福祉の制度や統計、地域の歴史、防災、高齢者や障がいのある方についての理解、車いすの扱い方などの福祉に関する学びを通して、営業や接客、商品企画や開発などの日常の業務に役立てていただくことを目的に、企業の皆様と連携したふくし教育を推進しています。

この度、これらのふくし教育を通して、「ふくし」を身近に感じ、それぞれの得意分野を活かし、個人としての地域貢献活動への参加、企業として取り組む地域貢献活動を始めるきっかけや、家庭で様々な生活課題を抱えた際に地域社会が支えてくれることを知る機会になるよう、この実践プログラム集を作成しました。

地域に暮らす様々な方との関わりを通して、命の尊さや思いやりの心、相手を理解しようとする豊かな心を育み、「共に生きる力」をつけ、誰もが安心して暮らせる地域を皆様と一緒に目指していきます。

令和4年3月
ふくし教育推進委員会

目 次

◎ はじめに

1. ふくし教育とは P 4～ 5

- (1) ふくしとは何か
- (2) ふくし教育の基本的な考え方
- (3) 企業がふくし教育に取り組む意義

2. 企業向けふくし教育実践プログラム P 6～18

- >> 実践プログラムの使い方
- >> 実践プログラムの展開方法
- >> 11の実践プログラム

3. ふくし教育実践プログラムの取り組み事例 .. P19～20

- 【事例1】 認知症を理解しよう
- 【事例2】 災害に備えてできること、災害時にできることを考えよう

4. 企業による地域貢献活動の紹介 P21～23

- (1) 一般社団法人フードバンク協和(協和商工株式会社)
- (2) 株式会社 佐世保福祉

◎ 参考資料 P24～25

- 福祉に関する用語解説
- ふくし教育推進委員会委員名簿

本文中に「*」が付いている単語は、P24参考資料「福祉に関する用語解説」に説明があります。

1. ふくし教育とは

(1) ふくしとは何か

「ふくし」という言葉には、「**ふ**だんの **く**らしの **し**あわせ」という意味があります。単なる語呂合わせではなく、普段の暮らしを大切にすることを表しており、すべての人々が幸せな生活を実現するという**ノーマライゼーション***の理念でもあります。つまり、「ふくし」は、私たちの幸せなくらしと密接に関わっています。

何が幸せか、どのような時に幸福感を味わうかは人によって様々で、その人の考え方、生き方、価値観などによって違ってきます。また、「自分の幸せ」だけでなく、「他の人の幸せ」も大切にし、それぞれの考え方、生き方を尊重することも必要です。

すべての人々が幸せな生活を実現するためには、個人が生きるための知識や知恵を得て活動し、また多くの人々が協力や協同して支え合う「ふくし」の仕組みが必要になります。

ふだんの **く**らしの **し**あわせ
共に生きる力を育むふくし教育

(2) ふくし教育の基本的な考え方

ふくし教育というと、「福祉」と「教育」という二つの言葉から「福祉について学校の授業で学ぶもの」と考えるのが自然かもしれませんが。しかし、福祉活動や実践が必要な場面は、私たちの「ふだんのくらし」の中にあり、広く言えば地域や企業においても展開できるものです。

そのような意味でも「ふくし教育」は、身近な生活の中で起こっている具体的な福祉の問題や課題について関心を持ち、体験を通じて一緒に考え、具体的に行動することが重要で、一人ひとりができることは何かを考え、行動できる力を育まなければなりません。

その実践によって地域で暮らす人々が、普段の生活の中で気に留めていなかったことに目を向けるようになり、地域の活動に参加してみようといった、気持ちや行動の変化につながることを目指して実施するものです。

これらは、すぐに成果が見えるものではありません。しかし、地道な取り組みの積み重ねにより、福祉の理解者を地域の中で少しずつ増やしていくという、地域福祉の基盤をつくるうえで重要な取り組みです。



〔企業におけるふくし教育〕

(3) 企業がふくし教育に取り組む意義

企業がふくし教育に取り組むことは、社員(職員)が個人としての地域活動について考え、行動するきっかけになるとともに、企業として取り組む地域貢献活動を具体的に検討する機会となります。その展開によっては、企業と地域との「顔の見える関係」をつくり、地域のニーズを知ることによって、人や社会のために貢献することが企業人としての成長が期待でき、そのような社員(職員)が増えることで企業の活性化も図られます。

また、ふくし教育への取り組みは、SDGs (持続可能な開発目標)*に関連した実践を始めることにもつながります。例えば、子どもの貧困や食品ロスに関する学びは、食糧の提供や輸送等への支援、フードバンクや子ども食堂等への支援に発展することが考えられ、目標1「あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる」の達成に向けた取り組みに位置付けることができます。

ふくし教育に取り組むことは、共に生きることへの理解が深まり、幸せな未来の実現に向けて大きな意義があります。



〔持続可能な開発目標(SDGs)〕
※ふくし教育との関連が強い目標

2. 企業向けふくし教育実践プログラム

》》 実践プログラムの使い方

福祉についての学びを通して、福祉や地域を身近なものに感じることで、企業の特性を活かした社会貢献活動の実践につなげ、地域と支え合っていくきっかけをつくります。社会貢献活動を行うことにより、企業がある地域の地域住民や関係機関とのコミュニケーションの場となり、お互いの理解を深める場ともなります。

「ボランティア活動をしたいが何から始めていいかわからない」「福祉についての知識をつけたい」「どのような社会貢献活動を行えばよいか」など、これから活動を行うにあたってのヒントとして、実践プログラム集をご活用ください。

》》 実践プログラムの展開方法

福祉や社会貢献と聞くとハードルが高いように感じるかもしれませんが、しかし、身近なところから始めることができるのも福祉に関する学びです。

企業での活動はもちろんのこと、その他にも日頃の生活や、家族、子育て、介護、ご近所同士のつながりなど、様々な場面で福祉での学びが生きてきます。福祉を知ることによって、お互いを知り理解し、支え合うきっかけになります。

例えば、災害に関して学んだことを基に実際に自分たちにできることを考え、その考えを共有することにより、企業としては災害発生時の対応の見直しや新たな社内の仕組みづくり、地域住民と協力した防災訓練の開催、支援物資の提供、個人としては家族との災害発生時のルールを決めておくことや、防災グッズを準備しておくなど、日常の業務や生活、社会貢献にもつながっていきます。

社会貢献を行うことは企業のイメージアップにもなり、社員（職員）の意識向上、企業としての活性化も期待できます。

なお、この実践プログラム集にはふくし教育を行った企業の実践事例や、企業が行っている社会貢献の実践事例も掲載しています。

実践までの流れ

- ① プログラムの選択…実践プログラム①～⑪の中より選びます。
- ② 相談・依頼…社会福祉協議会(0956-23-3174)までお問合せください。
- ③ 事前打合せ…詳細についての打合せを行います。
- ④ 企画・提案…事前打合せを基に、企画・提案させていただきます。
- ⑤ 講師等調整…講師との連絡調整、打合せを社会福祉協議会が行います。
- ⑥ 実施…計画に基づき実施いたします。
- ⑦ 実施報告…業務や地域貢献活動に活かしていただけるよう、報告書を作成します。

※実践プログラムの内容によります。

※掲載されていない内容につきましてもお気軽にご相談ください。

11の実践プログラム

企業向けの実践プログラムとして以下の11のプログラムを掲載しています。
それぞれの内容を確認いただき、実施に向けてご検討ください。

- ①地域の支え合い(福祉活動)を知ろう
- ②ボランティア活動を始めよう
- ③みんなで学ぼう地域の歴史
- ④介護について知ろう
- ⑤認知症を理解しよう
- ⑥障がいについて理解しよう
- ⑦ユニバーサルデザインを知ろう
- ⑧災害に備えてできること、災害時にできること
- ⑨食品ロスについて考えよう
- ⑩家族との暮らしについて考えよう
- ⑪一緒に働こう

※各プログラム内容にある、「リフレクション(Reflection)」とは、「省察」「ふりかえり」と訳されます。
どのような気づきが得られたかを大事にし、これからどうするかを考えます。

実践プログラム①

地域の支え合い(福祉活動)を知ろう

》ねらい

地域で行われている福祉活動について知り、その中での役割を考え地域貢献へつながるきっかけづくりを行う。

》こんな場面で役に立つ

地域の支え合い活動を知り、企業の得意分野を活かした地域貢献活動につなげることで地域内での信頼関係の構築につながる。

》プログラム例

時間(90分)	内容・手順
0～10(10分)	◆導入 ・オリエンテーション ・プログラムの流れや内容説明
10～40(30分)	◆講話 ・政策の動向、人口統計 ・地域の支え合い活動などについて
40～70(30分)	◆グループワーク ・これから何ができるか、身近な地域の支え合いについて考える。
70～90(20分)	◆リフレクション(省察) ・ふりかえり、まとめ ・今後の活動についての考えを共有する。
実施後の展開	・企業で地域のボランティア活動に参加することで、地域貢献につながる。 ・企業の特徴を活かした地域向けの講座を行うことで地域住民とのつながりを持つことができる。

☆効果

地域とつながりを持つことにより、地域との協働や地域ならではの事業への発展が期待できる。

～地域の支え合い活動について～

子ども達の登下校の見守り、一人暮らし等高齢者への声かけ、いきいきサロン(地域の居場所づくり)、ごみ出しのお手伝いなど様々な活動が行われています。

実践プログラム②

ボランティア活動を始めよう

》ねらい

働く世代の人たちがボランティア活動に参加するきっかけとなるように、ボランティア活動に関する講座と体験活動を行い、ボランティア活動への関心や参加意欲を高める。

》こんな場面で役に立つ

ボランティア活動を行うことによって、幅広い世代とのコミュニケーション力が向上し業務に活かすことができる。

》プログラム例

時間(90分)	内容・手順
0～10(10分)	◆導入 ・オリエンテーション ・プログラムの流れや内容説明
10～70(60分)	◆講話 ・ボランティア活動とは ・ボランティア活動の実践事例
70～90(20分)	◆リフレクション(省察) ・ふりかえり、まとめ ・これから何ができるか、今後の活動についての考えを共有する。
実施後の展開	・地域で行われているボランティア活動に参加する。 ・企業の有志によるボランティア活動グループを立ち上げる。

☆効果

身近なボランティア活動から企業主体のボランティア活動など、活動の輪が広がるような場所づくりを進めることにより、ボランティア活動の高揚と活動の発展が期待できる。



実践プログラム③

みんなで学ぼう地域の歴史

》ねらい

自分が住んでいる地域の歴史を学ぶことで、地域への愛着と想いを深め、交流のきっかけをつくります。

》こんな場面で役に立つ

接客時や社内、家庭内(親子)でのコミュニケーションづくり、地域住民との関係づくりにつながる。

》プログラム例



時間(120分)	内容・手順
0～10(10分)	◆導入 ・オリエンテーション ・プログラムの流れや内容説明
10～50(40分)	◆講話 ・佐世保や地域の歴史について
50～100(50分)	◆まち歩き ・地域の遺産や名所などを実際に歩いて巡る。
100～120(20分)	◆リフレクション(省察) ・ふりかえり、まとめ ・これから何ができるか、今後の活動についての考えを共有する。
実施後の展開	・家庭でも地域の歴史やふるさとの良さを話し伝えていく。 ・地域の歴史を交えた交流イベントを開催する。

☆効果

子どもから高齢者、地域の企業、様々な人との交流が生まれ、顔の見える関係をつくることができる。また、親子で一緒に参加することで、親子が共に地域への愛着を深めるきっかけになり、その土壌である地域について学ぶことで、子どもの「自分はどうような人間であるか」というイメージを形成することにつながります。

実践プログラム④

介護について知ろう

》ねらい

働く世代の人たちが介護に関する知識や技術を学び、親の介護等家庭での実践に役立てるとともに、将来の仕事と家庭の両立のため(介護離職にならない)のきっかけづくりをする。

》こんな場面で役に立つ

介護に関する知識をもつことにより、家族の介護が必要になった際に、介護による負担の軽減につながる。また、接客時のちょっとした介助や相談にも活かすことができる。

》プログラム例

時間(120分)	内容・手順
0～10(10分)	◆導入 ・オリエンテーション ・プログラムの流れや内容説明
10～60(50分)	◆講話 ・介護とはどういうものか、家庭介護の状況 ・介護保険制度や介護サービスについて
60～110(50分)	◆介護演習 ・介護に関する実技を通して介護技術を習得する。
110～120(10分)	◆リフレクション(省察) ・ふりかえり、まとめ ・これから何ができるか、今後の活動についての考えを共有する。
実施後の展開	・介護をきっかけとして、様々な団体や支援者とつながる。

☆効果

職場全体の介護に対する理解が深まり、仕事と介護を両立しながら働くことができる環境づくりができる。



実践プログラム⑤

認知症を理解しよう

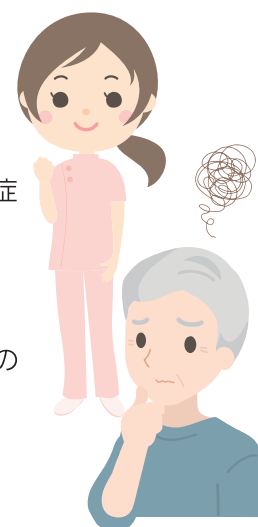
》ねらい

認知症についての正しい知識を持ち、職場や地域において認知症の方やその家族への支援のあり方について理解を深める。

》こんな場面で役に立つ

接客や営業で認知症の方の対応をする必要がある際に、認知症の症状や特性を理解することで、落ち着いて対応することができる。

》プログラム例



時間(120分)	内容・手順
0～10(10分)	◆導入 ・オリエンテーション ・プログラムの流れや内容説明
10～60(50分)	◆講話 ・認知症についての正しい知識や支援の方法 ・知っておきたい社会資源について
60～100(40分)	◆演習 ・支援の方法について演習を行う。
100～120(20分)	◆リフレクション(省察) ・ふりかえり、まとめ ・これから何ができるか、今後の活動についての考えを共有する。
実施後の展開	・認知症について関係機関や地域と連携しながら取り組んでいく。

☆効果

認知症の理解を通し、支え合いや地域福祉の意識を高めることができる。

～「認知症の当事者の声を聴く」ための参考資料の一例～

》長谷川和夫(2019)

『ボクはやっと認知症のことがわかったー自らも認知症になった
専門医が、日本人に伝えたい遺言』KADOKAWA.

》認知症未来創造ハブ「認知症当事者ナレッジライブラリー」

(<https://designing-for-dementia.jp/database/>)

実践プログラム⑥

障がいについて理解しよう

》ねらい

障がいについての学習を通して、「できること」や特性について正しく理解し、お互いに支え合うことの大切さについて気づきを深める。

》こんな場面で役に立つ

障がいがある方の特性や生活を理解することによって業務中や日常生活での接し方に役立てることができる。

》プログラム例

時間(120分)	内容・手順
0～10(10分)	◆導入 ・オリエンテーション ・プログラムの流れや内容説明
10～60(50分)	◆講話 ・障がいについての正しい理解と特徴など (肢体障がい・視覚障がい・聴覚障がい・知的障がい 精神障がい、発達障がいなど) ・当事者によるお話や交流
60～110(50分)	◆体験 ・体験を行い、誰もが生活しやすい環境づくりについて考える。(車いす・アイマスク・点字・手話など)
110～120(10分)	◆リフレクション(省察) ・ふりかえり、まとめ ・これから何ができるか、今後の活動についての考えを共有する。
実施後の展開	・障がいがある人だけでなく誰もが過ごしやすい環境づくりについて考える。

☆効 果

障がいについて正しく理解することで、障がいがある方の理解にもつながり、働きやすい環境づくりができる。

～参考資料の一例～

ヨシタケシンスケ『みえるとかみえないとか』アリス館



実践プログラム⑦

ユニバーサルデザインを知ろう

》ねらい

ユニバーサルデザイン*を知ること、誰もが利用しやすく、生活しやすい環境づくりの取り組みを行う。

》こんな場面で役に立つ

ユニバーサルデザインを知ること、誰にでも使える商品開発のアイデアを提案することや、職場のレイアウト時に取り入れることができる。

》プログラム例

時間(120分)	内容・手順
0～10(10分)	◆導入 ・オリエンテーション ・プログラムの流れや内容説明
10～60(50分)	◆講話 ・ バリアフリー* とユニバーサルデザインについて
60～100(40分)	◆体験 ・ユニバーサルデザインの商品を使用してみる。
100～120(20分)	◆リフレクション(省察) ・ふりかえり、まとめ ・これから何ができるか、今後の活動についての考えを共有する。
実施後の展開	・職場のユニバーサルデザインやバリアフリーについて話し合い、環境整備を考える。

☆効果

子ども、高齢者、障がい者、誰もが利用しやすい環境や社会づくりに取り組むことで顧客満足にもつながる。



実践プログラム⑧

災害に備えてできること、災害時にできること

》ねらい

基本知識を知ることによって災害に備え何が必要か、災害が起きた時にどのような行動ができるのかを考える。

》こんな場面で役に立つ

災害時の備えや災害時の行動を知ること、地域の一員として防災や災害時の復旧や復興に貢献することができる。

》プログラム例

時間(120分)	内容・手順
0～10(10分)	◆導入 ・オリエンテーション ・プログラムの流れや内容説明
10～60(50分)	◆講話 ・過去の災害から考える ・災害への備え ・災害時の行動、避難所の確認
60～100(40分)	◆体験 ・クロスロード*を使った演習
100～120(20分)	◆リフレクション(省察) ・ふりかえり、まとめ ・これから何ができるか、今後の活動についての考えを共有する。
実施後の展開	・企業と地域が連携しての防災訓練を行う。 ・企業としてできる災害時の支援について考える。

☆効果

災害に関する基礎知識を持つことにより、普段から災害時に備えた取り組みを行うことができる。



実践プログラム⑨

食品ロスについて考えよう

》ねらい

食品ロスの問題について理解を深め、フードバンク*やフードドライブ*の活動への関心や参加意欲を高める。

》こんな場面で役に立つ

食品ロスの問題に取り組むことで、環境への意識向上や社会貢献活動を行うことができる。

》プログラム例

時間(90分)	内容・手順
0～10(10分)	◆導入 ・オリエンテーション ・プログラムの流れや内容説明
10～70(60分)	◆講話 ・食品ロスの問題について ・フードバンク、フードドライブとは ・企業での取組みの紹介
70～90(20分)	◆リフレクション(省察) ・ふりかえり、まとめ ・これから何ができるか、今後の活動についての考えを共有する。
実施後の展開	・企業または個人でフードドライブに食品提供をする。 ・子ども食堂への支援を行う。

☆効果

企業だけでなく個人としても取り組むことができ、SDGsの取組みにもつながる。



実践プログラム⑩

家族との暮らしについて考えてみよう

》ねらい

家族の存在や役割、仕事とのつながりについて改めて考え、仕事と家庭のバランスやその大切さについて認識を深める。家族のライフスタイルの多様性や家族を取り巻く環境について現状を知る。

》こんな場面で役に立つ

企業の制度を利用し、家族との時間の確保や、理解を深めることで社員が協力し仕事をしやすい環境をつくることができる。

》プログラム例

時間(90分)	内容・手順
0～10(10分)	◆導入 ・オリエンテーション ・プログラムの流れや内容説明
10～60(50分)	◆講話 ・家族の存在や役割とは ・子育てについて ・ ヤングケアラー* など家族を取り巻く現状と課題について
60～80(20分)	◆グループワーク ・仕事と家庭について考える。
80～90(10分)	◆リフレクション(省察) ・ふりかえり、まとめ ・これから何ができるか、今後の活動についての考えを共有する。
実施後の展開	・家族で参加できるイベントを開催する。 ・仕事と家庭を両立しやすい仕組みや制度、相談しやすい環境を整える。

☆効果

家庭でのコミュニケーションの増加、地域の行事や学校行事へ参加することで人間関係の構築ができる。

～参考資料の一例～

南野忠晴(2011)『正しいパンツのたたみかたー新しい家庭科勉強法』



実践プログラム⑪

一緒に働こう

》ねらい

障がいや難病などの疾患を理解し、状態に合わせ工夫をすることにより、誰もが一緒に働くことができる職場環境をつくるためのきっかけにする。

》こんな場面で役に立つ

障がいや難病を抱える人と一緒に働く際、円滑に業務を行うための配慮や環境づくりを行うことができる。

》プログラム例

時間(90分)	内容・手順
0～10(10分)	◆導入 ・オリエンテーション ・プログラムの流れや内容説明
10～60(50分)	◆講話 ・障がいや難病の理解と多様な働き方について ・実践事例の紹介
60～80(20分)	◆グループワーク ・誰もが一緒に働くために必要なことを考える。
80～90(10分)	◆リフレクション(省察) ・ふりかえり、まとめ ・これから何ができるか、今後の活動についての考えを共有する。
実施後の展開	・障がいを持つ人が働きやすい仕組みや環境づくりについて考える。

☆効果

障がい、難病など理解を深めることにより、それぞれに合った働き方や接し方ができるようになる。

～参考資料の一例～

パンジーメディア・知的障害をもつ人たちの発信基地
(<https://www.pansymedia.com/>)



3. ふくし教育実践プログラムの取り組み事例

事例① プログラム名: 認知症を理解しよう

社 名：株式会社 共立自動車学校

事業内容：自動車学校事業、通学免許、合宿免許など

〔ねらい〕

認知症や高齢者についての理解を深め、高齢者や認知症のある方への接し方や気配りの理解につなげ、業務に役立てる。

〔内 容〕

講話(①福祉とは ②認知症について)

〔ふくし教育に取り組んだきっかけ〕

高齢者講習など、働く場において福祉と関わる場面があり、正しい知識や理解を得て、福祉の視点を仕事に取り入れていきたいと思ったからです。

〔感 想〕

福祉は高齢者や障がい者などに対するためだけではなく、幸福や豊かさの意味があることを知り、イメージが変わりました。ふくし教育を通して、相手を理解し認めようとする気持ちが芽生え、様々な場面で役に立っています。



事例② プログラム名: 災害に備えてできること、災害時にできることを考えよう

社 名：株式会社 山縣

事業内容：不動産の販売、賃貸、売買仲介、賃貸仲介、管理分譲マンションの管理受託、賃貸不動産・駐車場経営、防災設備事業

〔ねらい〕

災害ボランティアや防災についての知識を深め、学びを通して、企業として個人としてできること、地域での支え合いや地域貢献活動について考える。

〔内 容〕

講話(①佐世保の福祉情勢 ②災害に備えた取り組みについて)

〔ふくし教育に取り組んだきっかけ〕

社員研修の一環として「地域福祉」について理解を深めたいと計画しました。



〔感想〕

私たちが住む街でも地震や火災、水害などさまざまな災害に見舞われる恐れがあることを知りました。特に近年では集中豪雨による水害リスクが高まっており、災害について“自分ごと”として考えなくてはならないと感じました。

ふくし教育の中で、災害時、実際に何が起こるのかを映像資料等で具体的に教えていただき、企業として個人としてそれぞれが改めて行動を考えるきっかけとなりました。

不動産取引をする際、ハザードマップなどの災害情報を参考にする人が年々増えており、国民の防災への意識が高まっているとみられています。

また、2020年8月から賃貸借契約を交わす際、重要事項説明の段階で対象物件の水害リスクについて水害ハザードマップを用いた説明を行うことが義務化されました。

不動産事業者が深く防災に関わっていくことで、安心して暮らしてもらえるような物件のご提案につながると思います。

また、実際に災害が起こった際に弊社の空室物件や施設を有効利用できるのではないかと今後の施設利用のあり方について再考する好機となりました。

お客様が安全性の高い土地を選び、よりよい住宅づくりのお手伝いができるよう、今後も地域社会と関わりを深め防災対策に努めていきたいと思っています。



4. 企業による地域貢献活動の紹介

(1) 一般社団法人フードバンク協和(協和商工株式会社)

所在地：佐世保市白岳町151(協和商工(株)本社内)

事業内容：業務用食品卸業

従業員数：理事6名、事務局3名(R3.12.1現在)

★笑顔で『ごちそうさま』～『もったいない』から『おいしい』への架け橋を～

〔活動内容〕

平成28年10月13日に一般社団法人『フードバンク協和』を立ち上げ、平成29年4月より本格的に活動を開始しました。

1. 笑顔で『ごちそうさま』が飛び交う、明るい社会創りに貢献します。

1. 『もったいない』から『おいしい』への架け橋を創ります。

1. 本業を最大限に活かした地域社会貢献を行います。

を理念に掲げ、令和3年11月現在では佐世保エリア35団体(子ども食堂関連25団体、施設関連10団体)・長崎エリア36団体(子ども食堂24団体、施設関連12団体)に支援できるようになりました。また私たちへも佐世保市環境部様、長崎市環境部様、たくさんの各企業様、各病院施設様、各メーカー様、各団体様にご支援いただくようになって参りました。



〔活動のきっかけ〕

まずは5年前に九州子ども食堂サミットが福岡にて開催されたことがきっかけでした。長崎県からは県職員の方々や5団体(親子いこいの広場もくもく食堂など)の方々がお越しになられ、その講演の中で「6人にひとりが貧困の子どもである」ということを知らされ、その子供たちの為に何とかお役に立てないのかと想い、当社の本業である食品卸業を通して子供たちに『健全な成長』『明るい未来』を支援する取り組みをするようになりました！



〔実践して変わったこと・効果〕

このような活動を通してたくさんの方々(むすびえ・湯浅代表様、佐世保市環境部様、佐世保市社協様、長崎県環境部様、各企業・大手流通小売り業、大手生命保険会社、大手企業様、JA様、各施設・児童養護施設、障がい者施設、各団体・子供食堂、ひまわりプロジェクト学童保育、メディア・ハッピー FM佐世保)とのご縁をいただき、お互いの大きな絆が芽生え交流が出来てきた事です。



〔社員の声〕

- ≫ 地域の方々との繋がりも深まり、各団体様や子供たちに喜ばれる事で地域貢献に役立っていると肌で感じるようになってきました。また、地域企業様、各メーカー様から多大な協力を頂いた事で継続出来たと考えます。感謝いたします。今後各支店(他県)でも同様な活動を進めていきたいと想います。
- ≫ 業務用食品卸問屋として食に関わる我が社がフードバンクの活動を通して食品ロスの削減と子供たちの笑顔作りの一つに役立っている事は社員としても喜びで、子供たちから届くお礼の手紙や活動状況を見る度に我々社員も笑顔になる事が出来ています。これからもこの取り組みを継続し笑顔の輪を広げていく活動に関わっていきたいと思えます。

(2) 株式会社 佐世保福祉

所在地：佐世保市江迎町長坂164番地29

事業内容：障害者就労支援B型

従業員数：13名(R4.1.12現在)

★すべての人が住み続けたいと想えるまちづくりを

〔活動内容〕

佐世保市江迎町の地域資源認定の「江迎繭玉」を創作しています。江迎町では、「肥前えむかえ繭玉祭り」が毎年3月から約1か月間開催され、今年で開催20回目を迎えます。地域町おこしの為にいまから25年前に地域の婦人会、老人会が主となって始め、現在まで継承されています。

しかしながら、高齢化に伴い、祭りの存続が危惧され、その伝統文化を次世代に継承すべく、障がいを持たれた方の就労の一環として事業活動内容として取り組んでいます。

また、江迎町は「入り江で迎える宿場町」として歴史と風情あるまちですが、地域の衰退とともに、空き家も増えつつあります。空き家を活用し、利用者様の居場所を確保しつつ、江迎町の町並みを守りながら、社会資源の創出と地域資源の継承に社会貢献させて頂いております。



〔活動のきっかけ〕

私自身、佐世保市江迎町で生まれ育ち、そして現在も地域の一員として住み続けています。そんな江迎町の魅力を一人でも多くの方に伝えたいと想いを抱き、同じ想いを抱いた弊社の代表と共に、地域の創生に繋がる事業を構築致しました。

また、障がいを持たれた方が社会で活躍できる人材と環境を創出しつつ、すべての人が地域に住み続けたいと想えるまちづくりをしていきたいと活動を始めました。

〔実践して変わったこと・効果〕

活動を認知して頂き、佐世保市地域資源に認定され、また、商標登録までに至りました。さらに、地域に観光客が増え、地域の活力向上につながるきっかけとなりました。

〔社員の声〕

- ≫ これからさらに、地域の為に何が出来るかを考え、より魅力と活気あるまちづくりを進めていきたいと思いました。





福祉に関する用語解説

- **ノーマライゼーション**P4
障がいのある人もない人も高齢者も若者もすべての人々が、地域社会の中で、普通に生活できる社会こそ望ましい社会であるとし、すべての人々が共に生きる社会を目指そうとする考え方。
- **SDGs**P5
持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)。2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。17のゴール・169のターゲットから構成されている。
- **ユニバーサルデザイン**P14
障がいの有無に関係なく、すべての人が生活しやすいように製品・建物・環境をデザインすること。
- **バリアフリー**P14
高齢者や障がい者などが社会生活を送るうえで、障壁となるものを取り除くこと。
- **クロスロード**P15
災害時に見られるジレンマを題材にした設問に、YESまたはNOの判断を行い、災害を自分のこととして考えるためのゲーム。
- **フードバンク**P16
フードバンク活動とは、食品を取り扱う企業等や家庭においてまだ賞味期限ではないが、様々な理由により捨ててしまう食べ物を寄付し、その食品を困窮者へ無償で提供する活動。
- **フードドライブ**P16
各家庭で余った未使用の食品を持ち寄り、それを必要とする人々にフードバンクなどを通じて寄付する活動。
- **ヤングケアラー**P17
障がいや病気でケアが必要な家族がおり、家事や家族の世話などを日常的に行っている子ども。

ふくし教育推進委員会 委員名簿

【任期:令和2年4月1日～令和4年3月31日】

No	所属団体等	委員名	備考
(1) 学校教育関係機関			
1	佐世保市小学校長会	境 裕一	
2	佐世保市中学校長会	古庄 忍	R3.7～
(2) 地域活動関係団体			
3	地区福祉推進協議会等会長連絡会	松瀬 英子	
4	佐世保市民生委員児童委員協議会連合会	鶴田 修	
(3) 企業関係団体			
5	一般社団法人 佐世保青年会議所	山縣 昌彦	R3.12まで
		下津浦朱門	R4.1～
6	一般社団法人 フードバンク協和	馬場 美彰	
(4) 社会福祉・医療関係団体			
7	佐世保市福祉六団体連合会	牟田口達也	
8	一般社団法人 長崎県社会福祉士会	岩佐 亜弓	
9	佐世保地域リハビリテーション広域支援センター	兼石 匠	
(5) 社会福祉関係施設・事業者			
10	佐世保市介護支援専門員連絡協議会	○山田 亮	
(6) 学識経験者			
11	長崎国際大学	◎梅野 潤子	
(7) 行政			
12	佐世保市保健福祉部 保健福祉政策課	小川大治郎	R3.7～
13	佐世保市教育委員会 社会教育課	杉本 康子	

◎委員長 ○副委員長 順不同・敬称略

ふくし教育推進委員会 事務局名簿

地域福祉課課長	迎 雄三	地域福祉課課長補佐	富永 健三
地域福祉課係長	浦 ゆり	地域福祉課主査	川尻 康行
地域福祉課主査	近藤 敦	地域福祉課職員	榊原美奈子
地域福祉課職員	堀内 雄大		

【参考文献】

- 社会福祉法人 全国社会福祉協議会
「新・福祉教育実践ハンドブック」(2014)

企業向けふくし教育実践プログラム集

令和4年3月

発行： 佐世保市社会福祉協議会
〒857-0028 佐世保市八幡町6番1号
電話 0956-23-3174 (代表)